



平成25年2月4日

卓話 『浪速のジャズおばはん』
ジャズシンガー
綾戸 智恵 様



綾戸でございます。おおきに。デビューしたのが40歳で、15周年です。私、音楽以外では介護で有名になってしまいまして、最近はアイドルではなく介ドル、介護界のアイドルとなっていました。私、倒れたとき、自分の親やという気持ちが大きくて自分でできるだけやろうと思ってました。でもそのできるだけという努力の秤はありませんでした。どこで0グラムになるのか分からず、マイナスになって倒れてしまいました。人間って倒れてやっと分かる。何かいうたら頼むということですね。人とギブアンドテイク。この連鎖を忘れておりました。倒れて病院のいろんな方に助けてもらつて初めて、生きるというのは我一人走ることではないんだと。この辺りから人生明るくなりました。

母は家事一つしない人で、たまに料理を作ると後のキッチンは大変です。鍋が8つ、割れた皿が3つ、箸はほったらかし、大根の端っこはシンクに詰まつたまま。それを掃除するのは私でした。母の怠慢のお陰で私は家事が上手になりました。母は金儲けが上手で、家で座つて金儲けするねんと言って相場をしておりました。子供のころ私はお金というのは電話で持つて来てくれるもんや思つてました。そんな環境で育つたもんですから小学校2、3年の頃から主婦をしてました。

今回倒れたとき、母から、あんた人に頼むときは頼みや、お母ちゃんはあんたに死なれると困るねんと言われました。心配してくれてやはり親やなあというと、いや世話する女が無くなるからと。最後までええかっこのハードボイルドな母だと思います。でもその心の奥深くには私に迷惑かけたくないと、私が見ていないところでリハビリを

する母、トイレで迷惑かけたくない、立ったり座ったりの練習をする母がいます。今、やっと母が分かりつつあると思います。母が死ぬまでに全部理解するのは無理だと思いますが、ちょっとずつ見えていく

親子関係。その一日一日が自分の人生の教育なんだと思ってます。そう思ったとき急に一日一日が大事になりました。

ステージの上で私はこうやつたらお客様が喜ぶやろ、ああやつたら喜ぶやろと歌います。ここでしか言えないですが、こんな歌何で聴きに来るんやろと、いまだに思つてます。私の歌下手ですけど人の嗜好は分からない。商売でどうやって人がいいという歌を歌うか、こんなこと追求するのは止めました。楽しくその場を過ごそう。デビュー当時の私の歌を聞いてくれた人は、なんかわからへんけど綾戸さんの歌ってええねんと言ってくれます。それはデビューまでの私の毎日がその日のためにあつたのかなと思います。家事をやめず育児もやめず、人の手を借りながら全てやるとは何と贅沢な暮しだろうと思います。親の死に目にも会えないというのが芸の道。私はなるべく母の死に目に会いたいし、出来れば私の腕の中で、さいなら、おおきにと、途方もない夢を持つ私です。

ありがとうございました。